



電力

75  
まいん

# かいてい 海底ケーブル

世界最長  
夢を繋ぐ海底ケーブル



昭和32年敷設の海底ケーブルの一部  
住友金属鉱山株別子事業所四阪工場所蔵

**かいてい  
海底ケーブル**は、大正11年(1922)10月に新居浜～四阪島間を結ぶ約20キロメートルの距離を約1か月かけて完成しました。

この長さは当時世界最長でした。(それまではアメリカのサンフランシスコの海底ケーブルが6.6キロメートル)

最大送電容量は1,500キロワットあり、電気は新居浜の端出場水力発電所から送られました。

当時、ケーブル敷設については、世界にまだその例が無く、専門家の中でもさまざまな意見が出されました。



現在の海底ケーブル引込口の様子

敷設の方法は20数本のケーブルをあらかじめ陸上で接続して、2本のケーブルとします。それらを四阪および新居浜の両岸から沈設し、最後に海上において、両方に接続しました。この工事が最も困難でした。

また、ケーブルの数量不足や多くの失敗がありましたが、それらを克服し、10月15日とうとう世界最長の海底ケーブルの敷設を成功しました。その成功は、四阪島製錬事業への多大な貢献を行ったばかりでなく、日本の海底ケーブルに関する技術の新しい分野を開拓し、世界への寄与にもつながりました。



昭和32年撮影  
海底ケーブル敷設の様子  
別子銅山記念館所蔵

そこで、当時の技術者により熱心な研究が続けられ、大正7年(1918)に技術的可能性が明らかにされました。

さらには、北米まで出張し、現地研究を行い、プロジェクトの成功の可能性が十分であることを確信しました。

大正9年に帰国、そのプロジェクトを飛躍的に推進させました。

そして、大正10年9月23日工事が開始されました。



海底ケーブル修理の様子  
昭和31年撮影 別子銅山記念館所蔵



<http://nmh.hearts.ne.jp/k/gaidobook/075/index.htm>



四阪島へは関係者以外は立ち入ることができません。